

松尾卓球教室

「体を動かす楽しさ」

スタッフ 藤本泰夫

二十四年度の松尾卓球教室は、小学校二年生から小学校六年生までの二十八人が、毎週日曜日の午前中練習に励んでいます。

競技技術の向上はもちろんです。体を動かすことの楽しさ、そしてスポーツをすることの楽しさを感じてもらおうことを



クラブ・教室だより

念頭に、子供と一緒に卓球を楽しむことを心がけています。毎年二月に行われる飯田市長杯には、全員参加することになっています。残念ながら練習量の豊富な他のクラブに比べ競技技術の差が歴然と有りますが、負けることの悔しさ、自分の未熟さを経験します。

大会出場後の子供たちの姿を見ると、自分なりに考え、工夫をしようとするようになり、競技技術ばかりでなく、人としての成長を感じます。それがスタッフの励みとなっています。

HP開設しています。「松尾卓球教室」で検索してください。URL <http://odanet.gun.cc/pingpong/index.html>

松尾少年空手クラブ

牧内義治

当クラブは、中学二年生から小学校一年生の生徒が稽古に励んでいます。稽古内容は、基本形・組手を行っています。特に基本稽古を繰り返し稽古し、年齢や帯の色に合わせて、技の内



容や、力の強弱や正確にできるようになる。何回も繰り返し稽古をしています。基本ができるようになってきたら、形・組手を稽古します。子供達には、まず、力いっぱい元氣よく稽古させその中で、たくましい精神力や忍耐力などさまざまなことを、指導しています。

クラブ活動では、クラブ長、副クラブ長、班長、副班長、班員とクラブ員の人数によって、七八人の班を作り、毎回の稽古や野外活動の時には班で行動します。上級生は下級生の面倒を見て、下級生は先輩の言うことを聞いていく中で、礼儀正しい健全な生徒になれるように、日々稽古しています。

松尾育成会便り

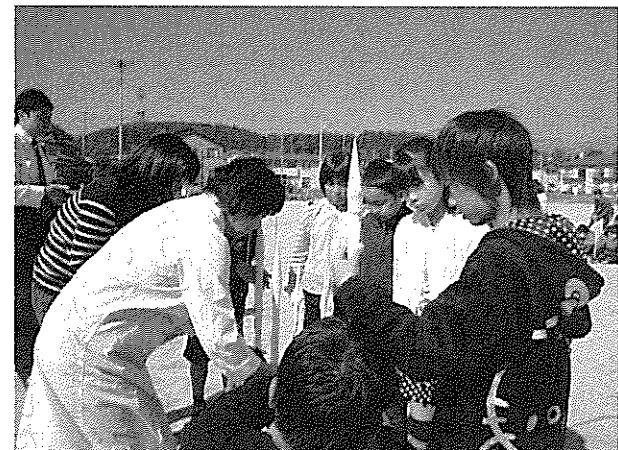
平成24年度 第28号

松尾地区まちづくり委員会
公民館 育成部
青少年健全育成会

モデルロケットを打ち上げよう!

十月二十二日松尾小学校五年生一三二人と松尾地区まちづくり委員会公民館育成部の青少年健全育成会と「松尾サイエンス」のスタッフ三十六人でモデルロケットの製作、打ち上げをしました。講師は「おもしろ科学工房」の三浦宏子先生で、厚紙のカレンダーに筒状の火薬を巻いて機体を作り、三枚の羽根や回収用のパラシュートを取り付け製作しました。完成後、校庭に発射台を設け、五、六基カウントダウンしながら、一人ずつボタンを押して点火。ロケットが白煙を噴射して空高く飛び立つと歓声があがりました。

この日は雲ひとつない快晴で、自分達が作ったロケットが空に吸いこまれていく感動と、パラ



シュートがひらいて落ちてくるロケットを必死に取りに行く子供達の姿が、とても楽しそうでした。こういった体験を通して理科のおもしろさを広めていきたいなと思います。(青少年健全育成会 広報部 鋤柄)

『モデルロケット』

松尾小学校五年

10月22日 日記より

津金 陽奈子

今日は、地域の方々といっしょに、モデルロケットを作りました。私は不器用なのでちゃんと作れるか心配でしたが、地域の方々が教えてくれたので、私も立派なロケットが作れました。ロケットを作り終わると外に出て打ち上げました。モデルロケットは予想以上の音で飛んでいったのでびっくりしました。そして、私のロケットもすぐくぐ飛んだのでうれしかったです。最後に地球や木星の大きさが分かる物ももらいました。今まで遠いと思っていた宇宙がとても身近に感じる事ができたのでうれしかったです。

小川 真季

今日、三・四時間目に、モデルロケットを打ち上げました。

お知らせ

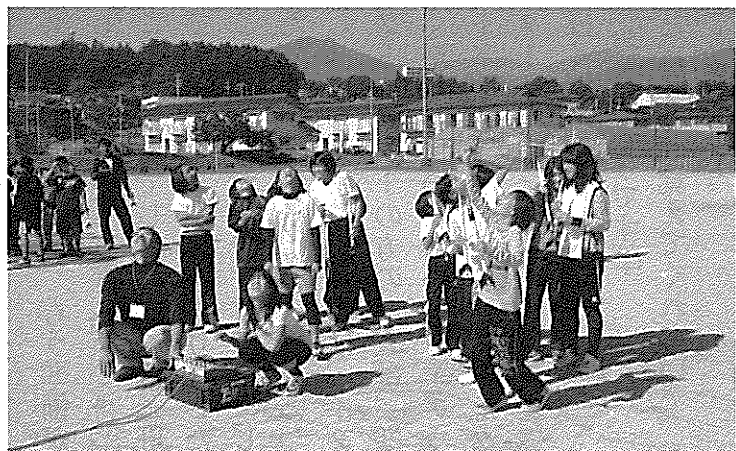
松尾少年スポーツクラブ等結団式が四月七日(日)、松尾小学校体育館で行われます。また、来年度より新たに「松尾キンボールクラブ」が発足します。

結団式の後には、練習や稽古の様子が開かれます。クラブ等に入っていないお友達も見学できますので、加入の際の参考にしてください。また、会場等の都合により練習のないクラブもありますのでご承知おきください。尚、体育館にはスリッパ等、上履きをご用意ください。年々、スポーツクラブ等に加入する子供たちが減ってきています。是非一度見学にいらしてください。多くの子供たちの参加をお待ちしています。

編集後記

本年度も育成会事業に対し、松尾地区の皆様方のご理解とご協力に感謝申し上げます。

また、広報誌発行にあたりご協力いただいた皆様、厚く御礼申し上げます。 広報部一同



始めは、「本当に作れるの!?!」と思いましたが。モデルロケットを作っていると、分からないこともたくさんあり、教えてくれる人に感謝しようと思えました。作っている時、「この火薬だけで六〇〇円するんだよ。五年生だけで八万円、打つんだ。」という言葉におどろきました。そんなに高いんなら、一生懸命作って、(2面につづく)

と声をかけてくれました。そして、着々とできてきました。ぼくが一番難しかったのは、ロケットの先たんの部分を作るところです。講師の方にやり方を教えてもらいましたが、ぼく自身あまり分かりませんでした。丸めるのも難しいし、どのくらいの細さにしたらいいか分かりませんでした。でも、優しく教えていただき、ついに完成しました。パラシュートを作る時、実は心の中では、

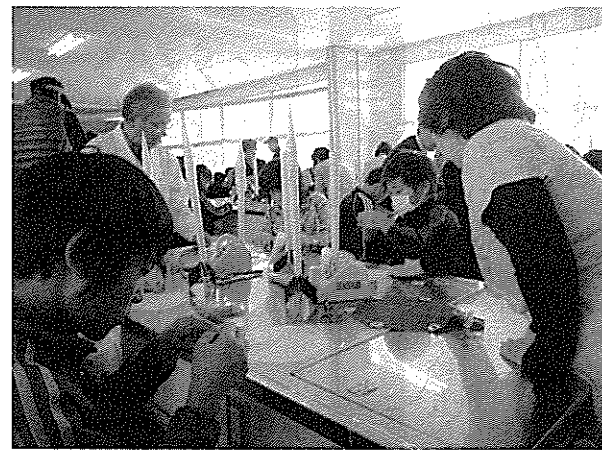


「ちゃんと飛ぶかな、不発にならないかな。ちゃんと自分のもとに戻ってくるかな」と、とても心配で心がはち切れそうでした。一発目、友達が、シューッ！といって飛び立ちました。すごいけむりでした。そして、ついにぼくの番です。カウントダウンされて、一のときにボタンを押しました。すると、シューッ！といって舞い上がりました。そして、パラシュートが無事帰ってきました。とてもうれしかったです。科学がまた一歩好きになりました。「やったー」

心の中でそうさげびました。あつという間の時間でした。あのアメリカ製の火薬が全員で八万円もするなんて思いませんでした。この企画のためにお金を出してくれた方々、そして、この日のために来てくださったスタッフの方、インストラクターの方に本当に感謝したいです。また、松尾サイエンススクールに行きたいなと思いました。とっても楽しい一日でした。

すぐく高くまで打ち上げたいと思いました。打ち上げるとき、ワクワクドキドキ。「上手に上がるかなあ」と心配でした。でもすぐく高くなりましたのでうれしかったです。ありがとうございます。

田畑 広太郎



今日は、モデルロケットを作つてとばしました。ぼくは、「モデルロケットをうちあげよう。」をたのしみにしていました。

吉澤 太一

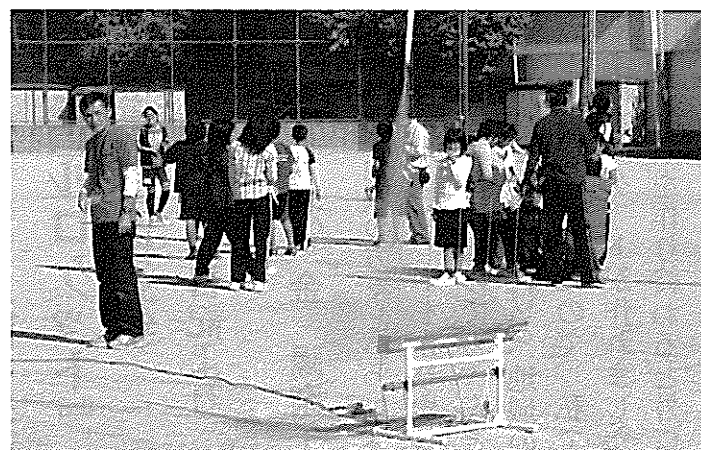
今日、三・四時間目に「モデルロケットをうちあげよう」をしました。最初は心配で、上がるのかなあと不安だったけど、一・二組がやっているのを見て、「だいたいよぶだな」と思いました。作り方は、案外むずかしかったです。打ち上げの時は、「うまく上がるのかな」と心配でした。「五・四・三・二・一」と言つて、カウントダウンが始

始めの作業を教えてくださいました。ぼくは、その作業の火薬をまく時に、大きくなり切つてしまいました。後になってかなり切つてしまいました。

いよいよ打ち上げの時、ぼくは、パラシュートが上手に出るか心配でした。だけど、うちあげた後、しっかりパラシュートが出て、上手に落ちてきたので良かったです。また何回かやると聞いたので、たのしみです。

まった時すぐきんちようしました。「シュー」すごい、いきおいで発射しました。「すごいなあ」と心の中で思っていました。すごく楽しかったです。またしたいです。

島岡 将希



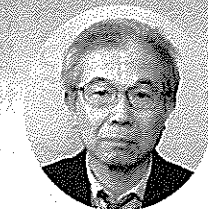
今日の三・四時間目はモデルロケットを打ち上げようです。

家庭科室へ行くと、もう準備がしてありました。火薬を使い、けっこう本格的でした。ぼくは三班です。まず、本体を作りました。これはかんたんですぐできました。インストラクターの方といっしょにやりました。実は、インストラクターの方の一人は、ぼくが入っていた昔の遊び・アウトドアクラブでもインストラクターをやってくれていました。ぼくが、「お久しぶりです。」と言うと、覚えてくれていて、「ああ、君か。」



今年度の活動をふりかえって

公民館育成部青少年健全育成会 会長 矢崎 晴美



四月のスポーツクラブ等の結団式を皮切りに、今年度の活動が始まりました。合言葉は「松尾の子どもは松尾で育てる」。スポーツに関する活動や、文化や科学に関わる活動を支援しました。

六月の「松尾の川の水 中生物をつかまえよう」では、梅雨時ということもあって二年連続の天候不順により、中溝川での活動ができなかったのはとても残念でした。今の子ども達にとつて実際に川に入ってドジョウや魚を捕まえる機会が貴重です。水の感触を楽しませてあげることができず、とても心残りです。

二年目を迎えた「モデルロケットを打ち上げよう」の活動では、天候にも恵まれ、五年生の子

ども達の顔の輝きが印象的でした。小学校の子ども達からは伝統的になってきた活動へ期待する声もたくさん聞こえてきております。

先日、スポーツクラブ等の代表者の方にお集まりいただき、今年度の活動報告をお聞きしたところ、加入児童の減少により今後の活動もおぼつかないクラブもあるようです。また、子ども達の体力の低下や体の使い方が下手になったことも問題になり、松尾の子ども達の現状が浮き彫りになりました。

育成会として今後どのような活動や支援をしていくことが、松尾の子ども達を健全に育てていくことにつながるのかを大いに考えさせられました。

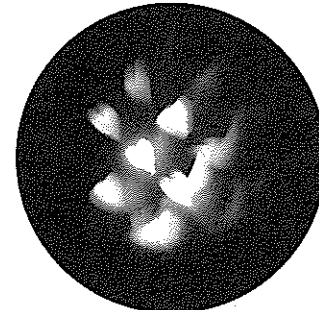
今こそ家庭と地域と学校が連携し、子ども達が心身ともに健全に育つていくように努めなければいけない時期かもしれません。

『科学で育む地育力』もの作りの楽しさと夢を

松尾サイエンス スタッフ代表 熊谷智治

シューと音を立てて火煙を吹きながら青空に吸い込まれるようにあがるモデルロケット、校庭に響く「ワー、すごい」の児童たちの歓喜の声。今年度も十月二十二日に、五年生一三二名全員がモデルロケット作りと打ち上げに挑戦しました。

育成会の事業企画で総合学習の時間を活用しての取り組みです。育成会および、松尾サイエンスと南信州飯田おもしろ科学工房のスタッフの協力で行いました。二月二日の松尾地区文化祭では、おもしろ科学教室を育成会と松尾サイエンスの協力で分光器作りを行いました。紙コップ二個の底に四角い穴を開け、接眼部側に回折格子シートを貼り付け、光の波長による色の変化を観察します。受光部に取り付ける黒い紙の穴の形を星形など自分の好きな形に開けて色の模様穴の形に変化するのを見て、「虹だ・きれい」など感激の声



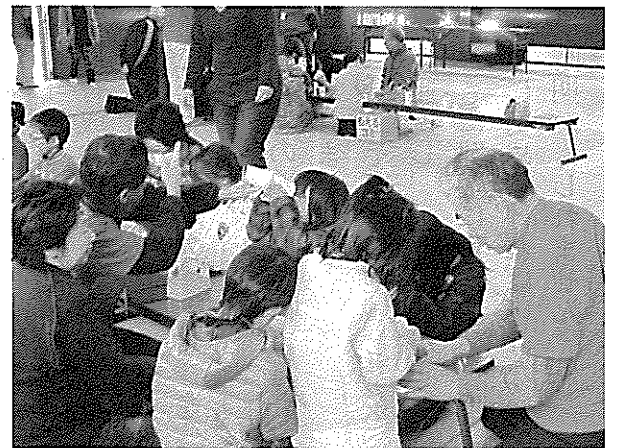
分光器をのぞくと虹色の光が見えます。色がなくて残念ですが、もやっとした部分が虹になります。

を上げ瞳を輝かせていました。松尾サイエンスでは、ミニ体育館に於いて、定期的にサイエンススクールを行っております。開催日などは組合回覧を確認ください。また夏休みや冬休みに今年度は、新井・明・水城・代田・毛賀の各区へ出前スクールを実施しました。(出前スクールの申し込みは公民館へ)大気圧の実験などの他、万華鏡やブーメランなど多くの工作を通して、もの作りの楽しさと科学のおもしろさを伝えております。スタッフ一同、子供たちと共に夢を追い、子供たちの瞳の輝きを活動の喜びとして、『科学で育む地育力』をスローガンに取り組んでおります。

松尾地区文化祭 「おもしろ科学教室」

毎年、恒例になっている「おもしろ科学教室」今年度は「分光器を作ろう」です。

紙コップに切り込みを入れ、折り上げてテープで止め、黒い紙、分光シートを貼る、黒い紙を輪にして中に入れ二つの紙コップを合わせて、できあがりです。一時二十分から開始なのに、待ち切れない子供達が続々とミニ体育館の中に入ってきました。さっそく、サイエンスと育成会のスタッフの中に入って作り始めました。早い子供は、たった五分程で作ってしまい、光に当てて見るとキレイな模様



様がいっぱいいます。もう一個作ろうと言う子供達と、新たに来た子供達、たくさん用意したテーブルは知らぬ間にいっぱいになり、ミニ体育館が、子供達でにぎやかになりました。

今の時代は、TVゲーム等、ポタン一つで何でも出来てしまう遊びが多い中、大人と子供が一緒になつて物を作つて、楽しめる、こんなひとときを味わつて、とても有意義な時間でした。これからも、サイエンス・育成会の皆様方、子供と多く関わりあつて、子供の喜ぶ顔を少しでも多く見せて下さい。(青少年健全育成会 広報部 吉川)

清水地区

鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭

子供神輿参加

支部長 福島俊至

今年度より清水地区とサンコーポラス地区のPTAが合併し、各種地区行事を一緒に行なっています。九月には松尾地区最大行事の一つ鳩ヶ嶺八幡宮秋季例大祭に参加させて頂きました。



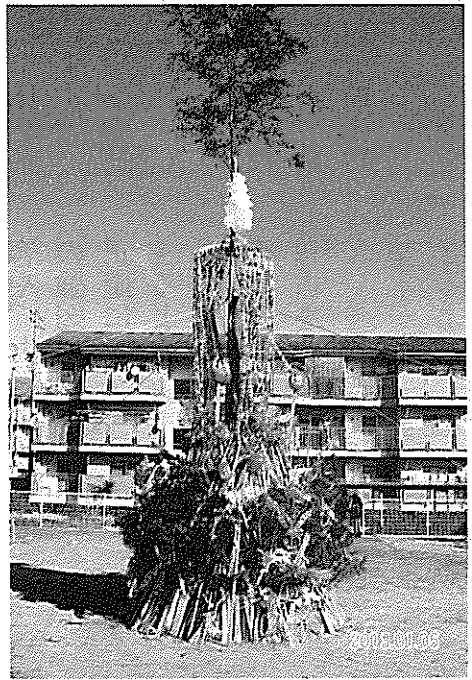
五・六年生で子供御神輿を担いで、四年生以下の児童が行灯を持ち、警護の皆様や保護者の方々に護られながら元気に地区内を練り歩き、無事に八幡様まで行くことができました。子供神輿は提灯が外れる程元気が良く、小さな児童達も大きな掛け声で頑張りました。また、お父さん達が担ぐ大人神輿を目を輝かせながら見ていた姿がとても印象的でした。お天気にも恵まれ、子供達にとって良い思い出になったと思います。

常盤台地区

どんど焼き

支部長 熊谷康弘

師走に入るとどんど焼きの準備が始まる。いよいよ六年生が主体となつて行なう最後の行事となる。児童三役による点火が行なわれた。縄や書き初めを持ち寄つて焼き、その火で



地区だより

餅を焼いて食べ、健康と幸福を祈る。

「子供達よ、知っているか？」

毎年、戸惑うのがどんど焼きの組み立てである。今年こそはPTAだけで組み立てようと思いついたが、何十年も指導して頂いている小澤さんをはじめ、幣束は、村澤さんをお願いした。区長さんはじめ、地域の協力なくして行事は成り立たない。育成会の名のとおり、こんな関わりや姿こそ、子供達に本来伝えたい事ではないだろうか。どんど焼きも無事終わった。来年もこんな関わりを期待したい。地域の皆様今後共宜しくお願い致します。

城地区

おんべ

支部長 篠田 博

平成二十四年度春、私は、松尾小学校PTA城地区副支部長、ならびに城地区青少年健全育成会支部長という大役を引き受けさせて頂きました。当初は、自身の仕事、子供の野球クラブの事務局などかけ持つことで、不安はありましたが、我が子供の為、また日頃お世話になっている、地区の為に、できる限り、協力しようと思ひ、取り組んでまいりました。

日頃は、あまり、子供達と接点が多かったのですが、他のPTA役員、学校関係者の皆様と打ち合わせなどしていくうちに楽しいと思ひ、よりいっそうと思う次第でした。なかでも、年始における、おんべの準備にいたっては、地区の先輩の方と子供達と、年代を越えて、協力しあい、無事、おんべに火がともり、感慨深い年の始まりができました。一年間、苦勞よりも、思い出が多く、また、私自身子供と共に成長できたことに、感謝したいと思ひます。